

## 関東支部のさらなる活性化を期待して



金澤 秀子

2016年度関東支部長として、早や1年が過ぎようとしています。就任しました際には、まさに晴天の霹靂でしたが、皆様に選んで頂きましたことを大変光栄に思い、お引き受けすることに致しました。ここ数年間は、理事、副会長、監事と本部の仕事を仰せつかり、支部へ顔を出す機会が少なくなっておりました。一方で、本部の仕事をさせて頂くようになって、会員数が多く支部活動も活発な関東支部の分析化学会における役割の大きさを改めて認識するようになりました。もちろんそれぞれの支部も大変活発に活動していらっしゃいますが、関東支部は学会関連の様々な活動に携わっている人の数も圧倒的に多いということがあります。したがって関東支部のさらなる活性化が分析化学会の今後の発展にも直接的に繋がると考えますと支部長として気が引き締まる思いがしました。

言うまでもありませんが、学会の基盤は会員であり、会員が学会の活動によって、さらに活発な研究そして充実した社会貢献ができ、十分な満足感が得られることが重要です。そのような意味においても、支部の活動は会員が学会を身近に感じられる場であり、講習会をはじめとして、会員のニーズに細かくこたえられるような場を提供することを心掛けなくてはなりません。また次世代を担う若手の育成と活性化は支部の重要な役割の一つです。支部内での縦と横のつながり、そして同じ分野の研究者同士の仲間意識が将来の学会を支える力となります。関東支部では新世紀奨励賞を設けて、優秀な若手研究者を顕彰していますが、今年度よりさらに機会を広げ、応募資格の年齢制限を引き上げ35歳としました。

多くの学会で、これまで学会を支えてこられた、そして人数的に多数を占めていた団塊世代の会員が定年を迎え引退される一方で、少子化の影響もあり学生をはじめ若手の会員数が減少しつつあり、必然的に会員が減少しています。また近年、大学予算の減少や日本経済の低迷、さらには学問分野の細分化が進み、専門ごとの中小規模の学会が多数存在しており、会員の減少は深刻な問題となっています。日本分析化学会の会員は、産業界の方が会員の半数近くを占めており、まさしく産官学が一体となり活動している学会です。関東支部の会員は特に企業の方が多く、講習会なども企業所属の方々の献身的なご協力の下で大変内容の濃い講習会が行われています。

会員のニーズも多様化しており、時代に合わせて年会のあり方も変わりつつあります。今年は、本部が主催する第66年会が開催されますが、東京での年会の開催は久しぶりです。企画は本部ですが、関東支部が全面的に協力する体制です。直前に開催されるJASISとも共同した企画が行われる予定です。学会ではさらにダイバーシティ推進にも力を入れ、女性研究者ネットワーク活動など女性に対する支援にも力を入れております。

分析化学は“Mother of Science”として、あらゆる分野の基礎となる学問領域です。しっかりとした基礎の上にこそ新しい科学が成り立つことを自負して分析化学に関わる方々に活躍して頂きたい、そのためにも学会のさらなる活性化に期待したいと思います。

[Hideko KANAZAWA, 慶應義塾大学薬学部, 日本分析化学会関東支部長]